



2021年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年8月7日

上場会社名 株式会社スズケン

上場取引所 東名札

コード番号 9987 URL <https://www.suzuken.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 宮田 浩美

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員経営管理部長 (氏名) 野原 正伸

TEL 052- 961- 2331

四半期報告書提出予定日 2020年8月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	516,627	5.5	4,159		1,870		1,578	
2020年3月期第1四半期	546,563	5.2	3,705		6,211	198.6	3,994	500.6

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 4,183百万円 (%) 2020年3月期第1四半期 230百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	17.70	
2020年3月期第1四半期	43.77	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	1,110,162	413,323	37.2
2020年3月期	1,112,507	412,708	37.0

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 412,442百万円 2020年3月期 411,838百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		32.00		40.00	72.00
2021年3月期					
2021年3月期(予想)		36.00		36.00	72.00

(注)1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2 2020年3月期期末配当金の内訳 普通配当36円00銭 記念配当4円00銭

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
第2四半期(累計) 通期								

新型コロナウイルス感染症第2波の到来が懸念されており、先行きについては依然として予断を許さない状況が続いております。これらの状況を踏まえ、現段階では、業績に与える影響に未確定要素が多いことから、2021年3月期の連結業績予想につきましては、引続き合理的に算定することが困難と判断し、未定としております。今後、業績予想の算定が可能となった段階で、速やかに公表いたします。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期1Q	103,344,083 株	2020年3月期	103,344,083 株
期末自己株式数	2021年3月期1Q	14,169,297 株	2020年3月期	14,169,231 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期1Q	89,174,831 株	2020年3月期1Q	91,272,073 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
3. その他	11
(1) 公正取引委員会による立ち入り検査について	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言が発出され、社会・経済活動が大幅に抑制されたことから極めて厳しい状況となりました。緊急事態宣言解除後、経済活動が徐々に再開されつつありますが、新型コロナウイルス感染症第2波の到来が懸念されており、景気の先行きについては依然として予断を許さない状況が続いております。

当社グループにおける新型コロナウイルス感染症対応については、お得意さまや当社グループ社員の健康に配慮したうえで医薬品等の安定供給を継続していくために、当社営業担当者の活動を原則自粛し、医療機関への医薬品等の安定供給に専念する輪番制(※1)を導入いたしました。加えて、不測の事態に備え、東邦ホールディングス㈱、㈱八神製作所と共同配送や納品代行など安定供給に向けた協業について合意いたしました。

緊急事態宣言の解除に伴い、営業活動の自粛、輪番制は解除しておりますが、新型コロナウイルス感染症第2波の到来が懸念されるなか、引続き医薬品等の安定供給ができる体制の構築を進めております。

そのようななか、当社グループは、2023年3月期を最終年度とする3ヵ年の中期成長戦略「May I “health” you? 5.0」を策定し、健康創造領域で社会に貢献する企業として、より一層、既存事業を進化させていくと同時に、日本が目指す新たなデジタル社会である「Society 5.0」において、社会の課題を解決できる新たな事業展開を目指し、更なる企業価値向上に取り組んでおります。

当第1四半期連結累計期間においては、希少疾病薬や再生医療等製品を含むスペシャリティ医薬品の流通モデル構築、およびMS(※2)の活動による新たな収益モデル構築に向け、多様な企業との協業を進め、「取引」から「取組」によるフィー獲得モデルへの転換を進めております。

具体的には、医療流通プラットフォームの構築に向けて、スペシャリティ医薬品トレーサビリティシステムである「キュービックス」を全国の地域中核病院などへ導入し、医薬品の流通品質向上に取り組んでおります。加えて、再生医療等製品の流通において、当社グループの持つ機能や医療流通プラットフォームを評価いただき、ノバルティスファーマ㈱の脊髄性筋萎縮症(SMA)に対する遺伝子治療用製品「ゾルゲンスマ®点滴静注」(※3)の日本国内における流通を受託いたしました。

また、新たに医療情報プラットフォームの構築に向け、Ubie ㈱と資本業務提携を行うとともに、Ubie ㈱が開発した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対応した医療機関向け問診サービス「AI 問診Ubie」(※4)の共同展開を実施しております。今後、既に提携している企業とともに、革新的なサービスや情報ビジネスを推進し、製薬企業や医療機関、保険薬局、患者さまへの新たな価値の提供を目指してまいります。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う医療機関の受診抑制の影響や営業活動の自粛により価格交渉が進まなかったことなどにより、売上高は5,166億27百万円(前年同期比5.5%減)、営業損失は41億59百万円(前年同期は37億5百万円の営業利益)、経常損失は18億70百万円(前年同期は62億11百万円の経常利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失は15億78百万円(前年同期は39億94百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)となりました。

※1 輪番制

: 不測の事態に備えて、当社支店の人員規模やエリア事情を鑑み、職種に関係なく社員を複数グループに分けてシフトを組み、出勤と自宅待機の輪番により、支店ならびに物流センターのバックアップ体制を構築いたします。

※2 MS (Marketing Specialist)

: 医薬品卸売業の営業担当者のこと。

医療機関・保険薬局等を訪問し、医薬品の紹介、商談、情報の提供や収集を行います。

※3 「ゾルゲンスマ®点滴静注」

: ゾルゲンスマは、脊髄性筋萎縮症(SMA)の原因遺伝子であるヒト運動神経細胞生存(Survival Motor Neuron: SMN)タンパク質をコードする遺伝子を組み込んだ、野生型アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)を利用した遺伝子治療用ベクター製品です。本年3月19日に、「SMA(臨床所見は発現していないが、遺伝子検査によりSMAの発症が予測されるものも含む)ただし、抗AAV9抗体が陰性の患者に限る」を適応として、厚生労働省より製造販売承認を取得しています。

※4 「AI 問診Ubie」

：従来の医療機関が使用してきた紙の問診票のかわりにタブレットを活用した医療機関向け問診サービスです。約5万件の医学論文から抽出されたデータに基づき、約3,500種類の質問データからAIが最適な項目を抽出し、タブレットで20個前後の質問を表示します。1,000近い病名から関連性のある複数の病名を病名辞典より表示します。患者さまの入力データは即時に電子カルテに送信され、電子カルテに記載を行う事務作業が大幅に削減されることから業務の効率化や医師の働き方改革にも繋がり、より患者さまに向き合い、診療に集中できるようになります。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(単位：百万円未満切捨て)

セグメントの名称		2020年3月期 第1四半期累計期間	2021年3月期 第1四半期累計期間	増減率(%)
医薬品卸売事業	売上高	525,528	497,823	△5.3
	営業利益 又は 営業損失 (△)	2,430	△4,689	—
医薬品製造事業	売上高	11,529	10,907	△5.4
	営業利益	655	672	2.6
保険薬局事業	売上高	23,961	22,264	△7.1
	営業利益 又は 営業損失 (△)	325	△508	—
医療関連サービス等事業	売上高	22,709	30,280	33.3
	営業利益	269	362	34.4

(注) セグメントの売上高にはセグメント間の内部売上高を含んでおります。

(医薬品卸売事業)

医療用医薬品市場は、抗悪性腫瘍剤の市場拡大やスペシャリティ医薬品等の新薬が寄与したものの、薬価改定および後発医薬品使用促進、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う医療機関の受診抑制の影響などによりマイナス成長であったものと推測しております。

そのようななか、売上高は、スペシャリティ医薬品をはじめとする新薬の販売増加があったものの、市場縮小の影響などにより減収となりました。

営業利益は、減収の影響および営業活動の自粛に伴い価格交渉が進まず、未決定先の販売価格を、お得意さまがご要望されている価格水準などを踏まえ見積計上したことなどにより営業損失となりました。なお、現時点における未決定先は、全体の8割強であります。

これらの結果、売上高は4,978億23百万円（前年同期比5.3%減）、営業損失は46億89百万円（前年同期は24億30百万円の営業利益）となりました。

今後、新型コロナウイルス感染症第2波の到来が懸念されるなか、価格交渉が例年通り実施できるか不透明であり、また、価格決定に向けて厳しい価格交渉が予想されますが、引続き適正利益の確保に向けた活動を徹底してまいります。

(医薬品製造事業)

売上高は、2型糖尿病治療剤「メトアナ配合錠」の早期売上最大化に向け取組むとともに、DPP-4阻害剤「スイニー錠」や高尿酸血症・痛風治療剤「ウリアデック錠」などを中心にWebを活用した販売促進に努めたものの、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う医療機関の受診抑制の影響、および糖尿病食後過血糖改善剤「セイブル錠」の特許切れに伴う後発医薬品の影響などにより減収となりました。

営業利益は、販売費及び一般管理費の抑制に努め、増益となりました。

これらの結果、売上高は109億7百万円（前年同期比5.4%減）、営業利益は6億72百万円（前年同期比2.6%増）となりました。

(保険薬局事業)

売上高は、調剤報酬改定や薬価改定の影響および新型コロナウイルス感染症拡大に伴う医療機関の受診抑制による処方箋受付枚数の減少などにより減収となりました。

営業利益は、減収の影響などにより営業損失となりました。

これらの結果、売上高は222億64百万円（前年同期比7.1%減）、営業損失は5億8百万円（前年同期は3億25百万円の営業利益）となりました。

(医療関連サービス等事業)

売上高は、主に、メーカー支援サービス事業（医薬品メーカー物流受託・希少疾病薬流通受託）の受託が増加したことなどにより増収となりました。

営業利益は、メーカー支援サービス事業における増収効果などにより増益となりました。

これらの結果、売上高は302億80百万円（前年同期比33.3%増）、営業利益は3億62百万円（前年同期比34.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況は次のとおりであります。

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ23億44百万円減少し1兆1,101億62百万円となりました。主な要因は以下のとおりであります。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ110億99百万円減少いたしました。これは主に、有価証券が104億97百万円増加したものの、現金及び預金が88億56百万円、受取手形及び売掛金が155億18百万円減少したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ87億55百万円増加いたしました。これは主に、投資その他の資産が100億97百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ29億59百万円減少し6,968億39百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が68億44百万円増加したものの、未払法人税等が77億9百万円、賞与引当金が44億20百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ6億14百万円増加し4,133億23百万円となりました。これは主に、剰余金の配当の支払が35億66百万円、親会社株主に帰属する四半期純損失を15億78百万円計上したものの、その他有価証券評価差額金の増加が58億11百万円あったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

緊急事態宣言解除後、経済活動が徐々に再開されつつありますが、新型コロナウイルス感染症第2波の到来が懸念されており、先行きについては依然として予断を許さない状況が続いております。

これらの状況を踏まえ、現段階では、業績に与える影響に未確定要素が多いことから、2021年3月期の連結業績予想につきましては、引続き合理的に算定することが困難と判断し、未定としております。

今後、業績予想の算定が可能となった段階で、速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	167,521	158,665
受取手形及び売掛金	486,991	471,473
有価証券	44,108	54,606
商品及び製品	134,166	138,734
仕掛品	2,298	2,347
原材料及び貯蔵品	3,262	3,938
その他	25,087	22,397
貸倒引当金	△1,228	△1,054
流動資産合計	862,208	851,108
固定資産		
有形固定資産	116,940	116,104
無形固定資産		
のれん	421	404
その他	10,659	10,170
無形固定資産合計	11,081	10,574
投資その他の資産		
投資有価証券	89,014	99,393
その他	34,194	33,863
貸倒引当金	△932	△883
投資その他の資産合計	122,276	132,374
固定資産合計	250,298	259,054
資産合計	1,112,507	1,110,162

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	644,161	651,006
未払法人税等	8,517	807
返品調整引当金	487	302
賞与引当金	7,756	3,335
その他	13,201	13,965
流動負債合計	674,124	669,419
固定負債		
役員退職慰労引当金	246	245
退職給付に係る負債	3,165	3,145
その他	22,262	24,029
固定負債合計	25,674	27,420
負債合計	699,798	696,839
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,546	13,546
資本剰余金	39,131	39,131
利益剰余金	386,233	381,088
自己株式	△57,315	△57,315
株主資本合計	381,596	376,451
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	35,744	41,556
土地再評価差額金	△5,821	△5,821
為替換算調整勘定	0	△93
退職給付に係る調整累計額	318	350
その他の包括利益累計額合計	30,242	35,991
非支配株主持分	869	880
純資産合計	412,708	413,323
負債純資産合計	1,112,507	1,110,162

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	546,563	516,627
売上原価	503,052	483,470
売上総利益	43,510	33,156
返品調整引当金戻入額	541	487
返品調整引当金繰入額	477	302
差引売上総利益	43,575	33,341
販売費及び一般管理費	39,869	37,500
営業利益又は営業損失 (△)	3,705	△4,159
営業外収益		
受取利息	65	28
受取配当金	544	635
受入情報収入	1,502	1,400
その他	528	337
営業外収益合計	2,639	2,401
営業外費用		
支払利息	13	12
不動産賃貸費用	53	55
その他	67	43
営業外費用合計	134	112
経常利益又は経常損失 (△)	6,211	△1,870
特別利益		
固定資産売却益	2	15
事業譲渡益	1	—
その他	0	—
特別利益合計	4	15
特別損失		
固定資産除売却損	9	23
投資有価証券評価損	6	37
その他	2	0
特別損失合計	18	62
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失 (△)	6,197	△1,917
法人税等	2,191	△351
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	4,005	△1,566
非支配株主に帰属する四半期純利益	10	12
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)	3,994	△1,578

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	4,005	△1,566
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,305	5,811
為替換算調整勘定	3	△4
退職給付に係る調整額	2	31
持分法適用会社に対する持分相当額	62	△89
その他の包括利益合計	△4,236	5,749
四半期包括利益	△230	4,183
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△241	4,170
非支配株主に係る四半期包括利益	11	12

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	医薬品 卸売事業	医薬品 製造事業	保険薬局 事業	医療関連 サービス等 事業	
売上高					
外部顧客への売上高	511,521	3,746	23,956	7,338	546,563
セグメント間の内部売上高 又は振替高	14,006	7,782	4	15,371	37,165
計	525,528	11,529	23,961	22,709	583,729
セグメント利益	2,430	655	325	269	3,680

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,680
セグメント間取引消去	24
四半期連結損益計算書の営業利益	3,705

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	医薬品 卸売事業	医薬品 製造事業	保険薬局 事業	医療関連 サービス等 事業	
売上高					
外部顧客への売上高	483,477	3,455	22,258	7,435	516,627
セグメント間の内部売上高 又は振替高	14,345	7,451	5	22,845	44,647
計	497,823	10,907	22,264	30,280	561,275
セグメント利益又は損失(△)	△4,689	672	△508	362	△4,163

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	△4,163
セグメント間取引消去	3
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△4,159

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. その他

(1) 公正取引委員会による立ち入り検査について

当社は2019年11月27日に、独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）の入札に関して独占禁止法違反の疑いがあるとして、公正取引委員会の立ち入り検査を受けました。立ち入り検査を受けたことを厳粛に受け止め、公正取引委員会の検査に全面的に協力しております。